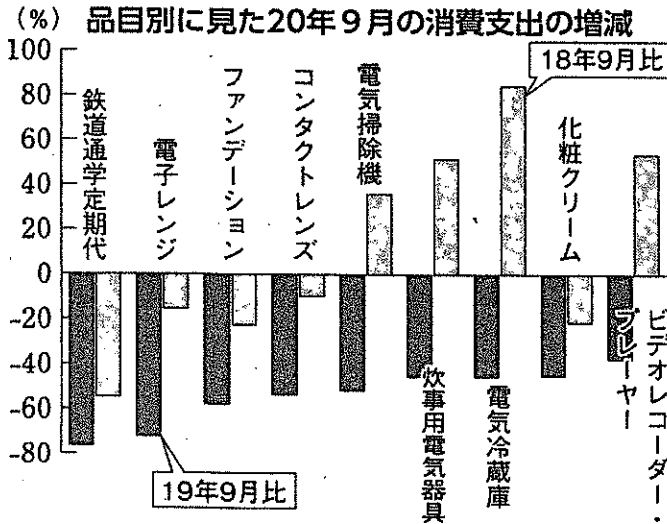


消費税10% 悪影響歴然

9月家計調査

消費支出大幅減

2019年10月に当時の安倍晋三政権が強行した10%への消費税率引き上げの影響が家計調査にくっきりとあらわれていきます。2人以上の世帯における9月の消費支出は前年同月に比べ大幅に減少しました。
(清水渡)



巣鴨地蔵通り商店街で買い物をする人たち＝東京都豊島区

19年9月は消費税増税強行の前の月に当たります。多くの国民が生活を守るために「消費税が増税される前に」と耐久消費財や通勤・通学の定期券、トイレットペーパーなどの買いだめをふくめ、「駆け込み」で消費支出を増やしました。そのため20年9月の消費支出は前年同月に比べ10.2%減と、7月(同7.6%減)や8月(同6.9%減)よりも生活に不可欠なティッシュペーパーや

トイレットペーパー、歯ブラシなどは大幅に減少しています。消費税を減税することは日々の買い物を通して国民の暮らしと関連産業を直接に支援することになります。

生活必需品が減

コロナ禍で変化

品目別に見ると、19年9月に比べ消費支出の減少が目立つのは鉄道通学定期代(同76.2%減)や電子レンジ(同72.1%減)、ファンデーション(同58%減)などです。とりわけ生活に不可欠なティッシュペーパーや

同時に、今年の消費支出を見る場合、新型コロナウイルスの感染拡大にともなう生活様式の変化を考慮に入れる必要があります。総務省が公表した資料では主な品目別に20年9月と一昨年(18年9月)の消費支出の比較もしています。

「駆け込み需要」の影響があらわれる以前に比べ、20年9月の消費の減少が目立つのは鉄道通学定期代(18年9月比54.9%減)、ファンデーション(同22.5%減)、化粧クリーム(同21.2%減)などです。一方で、18年9月比ではプラス53.6%もの大幅増でした。コロナ禍で自宅で過ごす時間が増えたために冷蔵庫やビデオレコーダー・プレーヤーの需要が増えたと考えられます。

一方、18年9月に比べて消費支出が極端に増えた品目もあります。冷蔵庫は19年9月に比べて45.6%の減少でしたが、18年9月に比べるとプラス84.3%の大幅増です。ビデオレコーダー・プレーヤーも19年9月比で37.5%減の一方、18年9月比ではプラス53.6%もの大幅増でした。コロナ禍で自宅で過ごす時間が増えたために冷蔵庫やビデオレコーダー・プレーヤーの需要が増えたと考えられます。